



■講習会・セミナー・見学会

●説明会・講習会

住宅金融支援機構承認「木造軸組工法による省令準耐火構造・工務店サポートセンター仕様(真壁)」利用講習会

プログラム: 1) 主催者挨拶

- 2) 省令準耐火構造の住宅の基本(木造軸組工法)について
- 3) 火災保険について
- 4) 工務店サポートセンター仕様の設計・施工チェックシートの記入及び住宅履歴情報の登録について
- 5) 登録管理者の役割について

開催日: いずれも9月、13:30~16:30(予定)

- | | |
|--------|------------------|
| 1日(木) | 青森・青森県総合社会教育センター |
| 7日(水) | 東京・タワーホール船堀 |
| 8日(木) | 静岡・富士市交流センター |
| 14日(水) | 高知・高知市文化プラザかるぼーと |
| 15日(木) | 熊本・チサンホテル熊本 |
| 16日(金) | 広島・ホテルセンチュリー21広島 |
| 20日(火) | 大阪・新大阪トレーニングセンター |
| 21日(水) | 愛知・愛知県産業労働センター |
| 26日(月) | 長野・信州スカイパーク |

受講料: 無料 登録管理者カード発行料: 1人3,000円

定員: 各会場50名(会場により異なる)

登録会社登録料: 1社10,000円(登録時のみ)

利用条件: 詳細は開催案内をご覧ください。

お問い合わせ先: 事務局 担当 坂口・永山

●「今年度の講習会」開催予定

今年度は下記の講習会を全国の主要都市で順次開催の予定です。開催詳細はホームページで案内します。

- | | |
|-------------------------------|------|
| ①「増改築相談員」講習 | 9月開始 |
| ②「木造軸組工法による省令準耐火構造KSC仕様利用講習会」 | |
| ※7月20日より全国で順次開催予定 | |
| ③「既存住宅改修」講習 | 9月以降 |
| ④「住宅履歴」+「住まいの管理手帳」講習 | 9月以降 |
| ⑤「耐震診断改修施工指導者」講習 | 9月以降 |
| ⑥「長期優良住宅の基本」講習 | 9月以降 |
| ⑦「長期優良住宅型式活用」講習 | 9月以降 |
| ⑧「木造住宅・工事管理技術者」講習 | 9月以降 |

●各種講習会のお申し込み

工務店サポートセンターHP→<http://www.jbn-support.jp/>よりお申し込み下さい。

刊行物のご案内

■新しい刊行物

●「木造住宅・工事管理の実務」

企画から満三年、JBN工務店の若手実務者を中心に刊行委員会を構成し、執筆、編集、調整、監修を重ねてきましたが、このほど刊行されました。本書の統括編著者・長森延久氏は「工務店の若手現場監督(施工管理者)のための入門書でもあり、



本書を参照すれば、経験の浅い現場監督でも行き届いた現場管理が行えるようになる」と推奨しています。本書を教材とした上記⑧講習を9月より予定しています。監修 藤澤好一/編著 工務店サポートセンター 彰国社刊、2011年7月30日第1版発行/定価(本体3,200円+税)

●国産材でマンション・リフォーム

工務店サポートセンター編、A4版・64ページ

*「既存住宅改修」講習会用教材

●バリアフリー改修から始める住まいの快適リフォームパンフレット

工務店サポートセンター編、A4版実例入り。

*「既存住宅改修」講習会用教材

●長期優良住宅・型式認定マニュアル(解説編・申請編)

工務店サポートセンター編、刊行2011年2月、A4・270ページ

*「型式認定」講習会用教材

●長期優良住宅型式認定マニュアル(国産材スパン表)

工務店サポートセンター編、刊行2011年2月、A4・400ページ

*「型式認定」講習会用教材

●長期優良住宅申請マニュアル申請編(新版)

工務店サポートセンター編、刊行2011年3月、A4・115ページ

●長期優良住宅建材マニュアル建材マニュアル①(構造編) 構造用面材・木造住宅用接合金物(新版)

工務店サポートセンター編、刊行2011年1月、A4・264ページ

●長期優良住宅建材マニュアル建材マニュアル②(省エネ編) 断熱材・開口部(新版)

工務店サポートセンター編、刊行2011年1月、A4・398ページ

●JBN版「住まいの管理手帳」戸建て編

長期優良住宅の完成引き渡しの際など、工務店サポートセンターの住宅履歴情報サービス機関「いえもり・かて」の利用には、本書の利用を必須条件としています。

((財)住宅金融普及協会発行、刊行2010年11月 頒価1,000円/冊) 講習会用教材DVD、刊行2011年5月

*「住宅履歴」講習会用教材

●「木造建築士資格研修テキスト」平成23年度版

本書は「木造住宅に精通したスペシャリスト・木造建築士」をめざす人はもちろん、木造住宅の設計・施工・管理に携わる人たちの学習専門書です。井上書院発行、定価3,500円(送料別)

■長期優良住宅関連の刊行物

●「長期・ちきゅう住宅」仕様書

全建連・工務店サポートセンター発行、刊行2010年3月、A4・118ページ

*同講習会用教材

●「長期ちきゅう住宅国産材モデル・展示住宅ガイドブック」

25事例の展示住宅の詳細をガイドブックとして刊行。一事例あたり6ページ構成で紹介しています。A4・164ページ 1,000円/冊(送料別)

JBN 会員登録募集

全国の工務店の力を結集するための組織がJBNです。「地域から必要とされ、信頼される工務店」のために工務店サポートセンターがさまざまな面から支援します。

暮 爺 記 (ほやき)

技能五輪全国大会の観戦を続けて15年になる。なかでも建築大工部門には時間をかけて観てきた。建築大工の競技は時間も最長で、2日間にまたがる持久戦だが、参加者は競技の中では常に最多だ。出場者は修業中の若者が中心で応援も多彩で賑やか、活気がある。それだけ選手を送り出す裾野が広いということだが、昨今いくつかの変化がみられる。女子選手の出場が目立つようになり、上位入賞者が出るようになった。高校、大学に在学する選手の参加もみられるようになった。とりわけ大きな変化は、上位入賞者のほとんどを企業選手が占めるようになったことだ。大手住宅企業の訓練機関に所属し、雇用と給料が保証され、ひたすら練習に打ち込める環境にある選手たちだ。彼らの背中には企業の看板を背負われ、入賞が至上命令になっている。技能の訓練と向上を目的とした競技の場が、企業PRIに染められつつある。既に製造系の部門はそうなって久しい。競った技能はラインでは使われない。競技と現場とが遊離している現実があるようだ。(F)

工務店サポートセンター レポート



日本最大の工務店ネットワーク
JBN
Japan Builders Network
■JBN会員数(2011年7月末日現在)
正会員 1,729社、協力会員 76社、情報会員 30社

- JBN・工務店サポートセンターの2011年度事業計画/全国木造建設事業協会設立について
- 事業報告・委員会報告
- JBN統計「国産材利用率と手刻み加工率」/建築大工の技能競技大会/会員団体の活動報告「滋賀県木造住宅協会」
- お知らせ

■「いえもり・かて」登録累計数(2011年7月末日現在)
3,006件

2011
September
No.26

9
月号

発行人: 藤澤好一
©工務店サポートセンター
禁無断転載

JBN・工務店サポートセンターの2011年度事業計画

第1回運営会義で青木理事長が所信表明

今年度より、JBN・工務店サポートセンターの運営等については運営会義で合議し、メンバーの理解と協力を諮りながら事業を推進していくことになりました。その第1回が8月9日(火)15時よりパルホテル茅場町会議室で開催されました。この会議のメンバーは、理事、執行役員、相談役、幹事(4名)、各委員会正副委員長で構成され、原則として隔月(偶数)に開催されます。この日の出席者は、事務局2名を含め、22名でした。

第1回目ということで、青木理事長がこの会議の位置づけと事業への取り組み、そしてJBN・工務店サポートセンターの運営などに関して、時間を割いて所信が表明されました。その主な内容を以下に紹介します。

全建連・会長に選任されて満4年、JBNを発足させ、工務店サポートセンターを設立して活動してきたが、ようやく形になってきた。その形とは、わが国に工務店の業界団体をしっかり構築すること、ここに参加する地域工務店が、自信と誇りをもって仕事に取り組める状況を実現させること。その目指すモデルがアメリカのNAHBだ。今日にいたる経緯を、その時どきの資料、組織図などをもとに説明し、その思いを熱く訴えました。

ここまで来たのだから、その実現に協力してほしい。とくに「次世代の会」は、50名を超える全国の若手メンバーで構成され、その活動が活発化していることを称賞し、次代を担う組織への激励と期待を託しました。

JBN会員の拡大こそが基盤の固めるうえでの重要な課題だとして、改めて会員登録の意義、メリットについて説明されました。当日、配布された資料に掲げられたのは次の10項目です。

- ①工務店の工務店による業界をつくり全国組織として消費者の安心と信頼に応える
- ②地域工務店の要望・実態を国へ伝えることが出来る
- ③色のついていない中央情報部が早く正確に直接手に入る(補助事業、政策等)
- ④実務者の会(次世代の会)で同世代の情報交換と仲間作りが出来る
- ⑤必要な開発研究に参加できる
- ⑥工務店・協力会員・支援団体が業界としての情報交換ができる
- ⑦都道府県との協定事業、大型プロジェクトなどに参加できる
- ⑧各種申請(長期優良住宅・補助事業)についてサポート、支援が受けられる
- ⑨各種保険・保証・いえかて登録などが割引料金で受けられる
- ⑩工務店にとって必要で役に立つ各種講習会に割引で参加できる



所信を表明する青木理事長



第1回運営会議 熱心に耳を傾ける出席者

【委員会活動】増改築委員会: 玉置委員長/環境委員会: 安成委員長/国産材委員会: 山田委員長/改良型木造軸組工法委員会: 西村委員長/防耐火委員会: 長森委員長/マイホーム借り上げ制度検討WG: 青木哲也委員長

一般社団法人全国木造建設事業協会を設立 一般社団法人工務店サポートセンターと全国建設労働組合総連合(全建総連)の2団体で

応急仮設木造住宅建設協議会の活動を継承し、さらなる発展に向けての組織化を両団体で協議を重ねてきましたが、このほど全国木造建設事業協会の設立について合意し、活動を開始することになりました。全国の工務店の業務、技術、人材を支援するための主な事業として定款に掲げられる主な事項は次のとおりです。

- ・大工・工務店による木造建築を通じての森林・林業活性化の事業
- ・大工・工務店の業務及び技術支援に関する事業
- ・大工・工務店の後継者及び人材育成に関する事業
- ・大工技能の振興に関する事業 など

設立は、9月1日(木)を予定し、プレス発表などを通じて広報されます。理事長には、当センター・青木理事長、副理事長には全建総連・田村中央執行委員長、専務理事には全建総連・徳本住宅

対策部長が、それぞれ就任する予定です。本部の所在地、ならびに住宅部会(講習会・事業関係)は当センターに、また技能部会(全建総連)に設置し、活動を開始することになります。当面の活動は、東海・東南海・南海地震で被害が想定されている都道府県との災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定の締結、型式認定利用講習会開催などの事業に共同で取り組むこととしています。また、今後は賛助会員に関係団体やメーカー等を加えて、全国各地で地震等の災害が発生しても、応急仮設住宅等の災害救助に対して迅速に対応できるようにしていく予定です。

東日本大震災で被災された全建連・JBN会員、会員団体の関係者の方々には、心よりお見舞いを申し上げます。応急仮設木造住宅建設協議会の活動を支えるとともに関連機関との連絡、調整をはかりながら復興支援に努めてまいります。



FSC® 森林認証紙と植物油インキを使用し、環境にやさしい「水なし印刷」を採用しました。また、環境保全活動を積極的に推進するグリーンプリンティング認定工場で製造しました。

活動報告

■前月号以降の活動

○第1105回 役員会 8月9日(火) 13:00~15:00
出席者 理事2名、執行役員3名、相談役1名、事務局2名

【あいさつ】

・青木理事長

本日は、役員会の後、第一回運営会議を開催する。運営幹事、各委員会委員長など約20名が参加する。サポートセンターも内容が充実してきている中、この人達に運営の中心になって頂き、更なる発展と基盤強化に繋げていきたいと考えているので、宜しくお願いする。

・藤澤センター長

「省令準耐火」と「木造住宅・工事管理の実務」が形となってきた。この2つにインスペクション・システムを絡ませ、JBN工務店のブランド力を高めていきたい。まだまだ不十分だが、理解を得て、浸透を図っていききたい。ご協力とご理解をお願いしたい。

【主な報告】

- 1) センターレポート(No.25)関連、委員会報告
- 2) 会員実数、住宅履歴登録数
- 3) 7月末の財務諸表について
7月末が期末の第2期決算報告書(案)が報告された。内容としては利益が計上されたことがポイント。
- 4) 社員募集途中経過について
- 5) 今年度の国交省補助事業の採択内容について
「住宅市場整備推進等事業」に関する補助事業の概要について報告された。主なものは研修会の実施、地域サポートセンターの育成・強化、住宅診断(インスペクション)手法の策定など。総額は約71百万円。

【主な議題】

- 1) 一般社団法人全国木造建設事業協会設立について
9月1日(木)に設立会見を開催する予定で準備を進めている。
- 2) その他

[次回] 9月13日(火) 15:00~17:00

青木理事長の動き

2011年7月15日(金)~8月12日(金)

7月

- ・15日(金) 住宅あんしん役員と会合・センター長同席
- ・19日(火) JBN全国大会(ワシントンホテル)
- ・20日(水) JBN省令準耐火講習会(すまい・るホール)
木の家づくりから林業の再生をはかる会(国交省・林野庁)
- ・21日(木) 一般社団について総連と打合せ
- ・28日(木) 岡山県木連講演
- ・29日(金) 広島県工務店協会・河井会長と打合せ

8月

- ・2日(火) 中野栄吉氏叙勲祝賀会
- ・3日(水) 安井昇氏による木造住宅防耐火セミナー(東京エアシティターミナル)、「木造住宅・工事管理の実務」出版記念パーティー(パールホテル茅場町)
- ・4日(木) 仮設住宅ビデオ撮影出演、全建総連徳本部長、SC和田本部長、土会連合会藤本会長、東京都東大和市向原地区プロジェクトに関する打合せ
- ・8日(月) 劣化診断委員会(木材防腐協会)
- ・9日(火) 工務店サポートセンター役員会・運営会議「23年度方針発表」
- ・10日(水) 民主党既存住宅流通促進WTにて全建連(JBN)の取り組み説明、国交省住宅生産課長へ仮設の報告届・一般社団の報告
- ・11日(木) 住宅金融支援機構打合せ
- ・12日(金) 環境省・中期ロードマップ準備会出席

委員会・WG報告

次世代の会

- 第1104回 8月23日(火)・24日(水)
・北海道の工務店視察研修
・武部建設視察(古民家再生・現場視察・営業戦略・ディスカッション等)
- 9月はジャパンホームショー出展のため開催なし

国産材委員会

- 第1103回 8月24日(水) 15:00~18:00
セミナー「施主が感銘する木材の使い方・見せ方」
内容:内装材をどのように使うと、施主の心を捕まえられるのか
講師:京都大学大学院 仲村匡司先生
場所:東京シティーターミナル
[次回予定]9月7日(水) 15:00~

環境委員会

- オープンセミナー 7月20日(水) 14:00~15:45

場所:すまい・るホール
国交省 高見企画専門官を招きオープンセミナーを開催
議題は「低炭素社会に向けた住まいと住まい方について」
参加者:140名

- 第1102回 同20日(水) 16:00~17:30

場所:貸会議室 内海101にて
・今回のオープンセミナーについて意見交換。JBN会員向けとして成果があった。今後の活動として、「省エネみえる化」へ向けての活動体制を整えていく。スマートハウスの実状報告など。

[次回予定]9月21日(水) 14:00~17:30

増改築委員会

- 高齢者居住安定推進事業バリアフリー改修事例調査
7月9日(土)宮崎県、16日(土)・17日(日)高知県、
22日(金)広島県、29日(金)石川県、8月2日(火)岐阜県

- 7月28日(木) 滋賀県木造住宅協会への出前シンポジウム

詳細は会員団体活動報告(3ページ)で紹介。
[次回予定]8月19日(金) 15:00~17:00
場所:東京シティーターミナル 会議室
内容:高齢者事業ヒアリング及び中間報告

防耐火委員会

- 7月20日(水) 10:00~
省令準耐火構造特記仕様講習会開催 受講者:250名
- 8月3日(水) 13:30~
木造住宅の防耐火性能向上のため学習会開催

改良型木造軸組工法委員会

- 7月の開催無し

マイホーム借り上げ制度検討WG

- 下記の説明会・講習会を実施中
「移住・住みかえ支援適合住宅説明会」
「移住・住みかえ支援適合住宅講習会(HLP取得講習会)」

ジャパンホームショー2011

9月28日(水)~9月30日(金)の3日間 10:00~17:00
会場:東京ビッグサイト・東ホール
JBN・工務店サポートセンターでは、昨年と同様の21コマの21のブースを確保するとともに、各種セミナーと活動内容のパネル展示による情報発信を中心とした出展を予定しています。

工務店サポートセンター・セミナープログラム(予定)

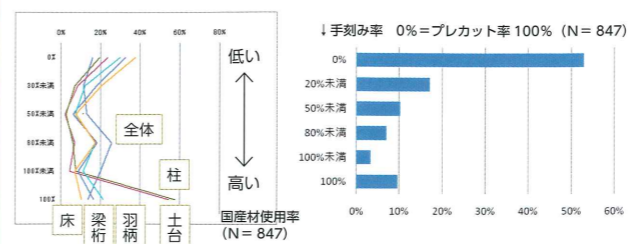
| | 9月28日(水) | 9月29日(木) | 9月30日(金) |
|-------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 11:00 | 全国の工務店の現状調査結果から見る今後の交換の方向性 | 高齢者バリアフリーに向けた対応と実践 | 住宅の強度確保に向けた構造等級2の確保を行う設計の実践 |
| 12:30 | 地域工務店が活用可能な型式認定・プレカット活用から手刻み加工まで | 地域工務店が活用可能な型式認定・プレカット活用から手刻み加工まで | 工務店が活用可能な、木造軸組工法による省令準耐火の概要と利用条件 |
| 14:00 | 既存住宅の活用について移住・住みかえ支援適合住宅制度とは? | リフォーム需要の高まりにもともなう施工技術のあり方 | 地域工務店が活用可能な型式認定・プレカット活用から手刻み加工まで |
| 15:30 | 工務店が活用可能な、木造軸組工法による省令準耐火の概要と利用条件 | 青木会長による 応急仮設木造住宅の話 | 豊セミナー |

工務店サポートセンター統計

国産材利用率と手刻み(プレカット)率

本年3月実施したJBN会員アンケート調査(有効回答数847)からの動向です。それぞれに比率が高い傾向がみられますが、両極というのではなく中間の分布が見られることから、状況に応じた柔軟な対応している点が特徴といえます。そのためには大工の存在が大きいです。

一 国産材利用率と手刻み率一



建築大工の主な技能競技大会

- 若年者ものづくり競技大会

8月2日(火)~5日(金)、第6回大会が神戸にて開催された。若年者ものづくり技能に対する意識を高め、技能習得の目標をもち、競い合う場を提供すること、若年技能者の就業促進と裾野の拡大を図ることがねらいであり、2005年から実施されている。



第6回大会ポスター

競技職種は14職種。機械、電子電気、情報系が中心で、建築系では建築大工、電気工事。

大会への出場資格一職業能力開発施設、工業高等学校などに在籍し、技能を習得中の未就業者で、20歳以下の若年者。今年の建築大工部門参加者は31名。競技課題(4時間15分以内)に練習で鍛えた技を競った。成果物は木ごしらえ・かんな仕上げ・墨付け・加工組み立ての精度などで評価され、順位が決まる。建築大工部門の入賞者の所属校は、第1位・第一工業大学(鹿児島県)、第2位・宮崎県立産業技術専門学校、第3位・岐阜県立国際たくみアカデミー職能開発短大校、敢闘賞・北海道旭川工業高校/新潟県立上越テクノスクール/愛知県立佐織工業高校。

- 技能五輪全国大会

青年技能者を対象とした技能競技会。第1回は1963年、第12回国際大会(アイルランド)へ派遣する日本代表選手の選抜も兼ねて開催。以降、毎年開催されており、国際大会(奇数年開催)の前年は、国際大会への派遣選手選考会をかねる。競技種目は40職種(金属系 5、電子技術系 4、機械系 8、情報通信系 3、建設・建築系 10、サービス・ファッション 10)。

大会への出場資格一各都道府県職業能力開発協会等を通じて選抜された者で23歳以下、ただし、国際大会は開催年に22歳以下。第48回かながわ大会(2010年)では、長谷川大樹選手(新潟県連)が銀賞を受賞した。今年度は、12月に静岡県で開催の予定。

- 技能グランプリ大会

技能士の技能の一層の向上、その地位の向上と技能尊重気運の醸成などが大会の主旨。熟練技能者が技能の日本一を競う全国規模の技能競技大会。競技種目は30職種、うち建設系は建築大工など10職種。

大会への出場資格一年齢制限はないが、技能検定の特級、一級又は単一等級の技能士であること。中央職業能力開発協会と(社)全国技能士会連合会の共催、後援は厚生労働省ほか。本年3月に開催された第26回大会では、建築大工部門で藤原正和選手(新潟県連)が内閣総理大臣賞に輝いた。

会員団体の活動報告

滋賀県木造住宅協会

活動活性化のためのシンポジウム開催

7月28日(木)14:00より、近江八幡市・G・NETしが滋賀県立共同参画センターで開催されました。「協会の活動を活性化させたい。どう取り組んだらよいか」という相談が寄せられ、これに応じる形でこの日の集会となりました。

まずは工務店サポートセンターの活動事例などを具体的に知ってもらう、その上でどのような取り組みができるか、などの意見を交換する場とする、ということで、サポートセンター側からは増改築委員会の主力メンバーが参加しての「出前シンポジウム」となりました。

滋賀県木造住宅協会の根縫会長から「近江八幡は歴史的に職人や材料の集積地でもあり、建築や町並みに反映されている。こうした地域の特徴を活かした取り組みもアピールしていきたい。また、JBNの活動や国の施策と連携して、地域工務店の活動に活かしていきたい」と開会の挨拶。

次いで、センター長がJBNと工務店サポートセンターのこれまでの活動として、さまざまなサポートツール、情報、仕組みなどの成果を紹介し、地域工務店の存在と信頼感を高めるためにも大いに活用してほしい、と呼びかけました。本年度の重点施策は「既存住宅改修」。性能向上につながる改修リフォームは、これからの地域工務店ならではの仕事となる。JBNは長期優良住宅をはじめ、さまざまな活動で国をはじめ、地域からも高く評価される業界全国組織として認められるようになった、地域との交流を深めることがより発展につながる、と訴えました。

パネル・ディスカッションは玉置増改築委員長の司会で進められました。パネラーは、いずれも増改築委員会のメンバーでもあり、JBNのさまざまな活動を積極的、精力的に支えている工務店経営に関わる若手実務者。この顔触れは、玉置委員長の意向によるもので、3年目に入っている高齢者居住安定事業の成果物をまとめるにあたり、地域の関係者との交流をはかり、反映させたい、ということでも実現したものです。山田幹事(運営委員)、鈴木委員(次世代の会会長)、西村委員(改良軸組工法委員会委員長)、関尾委員(次世代の会)からそれぞれの立場から活動報告とその効果など、が語られました。個々で取り組むことの限界を感じたこと、組織的な取り組みが大きなパワーにつながることで、活動への参加で相談もでき、協力して研鑽できる仲間が出来たこと、交流と情報交換をより活性化させるためにネットワーク、組織の力は重要だと訴えました。

会場との意見交換では、会員同士の交流が少ない。中央からの情報をもっと知りたいと思っているが、いまだに関ヶ原がバリアーになっている。今後は具体のテーマをもとに積極的な交流を進めていく必要がある、などの意見が出ました。玉置委員長からは、地域からの委員会等の活動に積極的に参加してもらい、それを活かした情報として持ち帰り、地域の実情にあった取り組みに反映してほしいと結びました。またセンター長は、地域サポートセンターに発展できるネットワークの中心にある事務局に期待したいとまとめがありました。

最後に協会の野瀬専務理事から「貴重な話を聞くことが出来た。同業の仲間が出来て、交流を通じて生きた情報を交換することがいかに重要かということを再認識した」との挨拶があり、今後の積極的な参加と活動を参加者に呼び掛けました。(F)



当日のパネルディスカッション

- 一般社団法人 高知県中小建築業協会 「土佐流棟梁指南堂」が採択

国土交通省の木造住宅等の施工能力向上・継承事業の本年度事業に採択。昨年度の国土交通省・林野庁連携プロジェクト「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」を継続、発展させるものとして成果が期待されます。